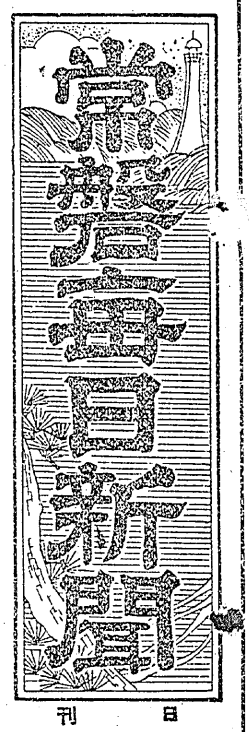
一月十四日



日曜祭日の翌日休刊
定價一ケ月金五拾錢郵税五厘
廣告料五段十二字詰一行金五拾錢
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
發行所　常磐毎日新聞社
福島縣石城郡平町長都町三五
電話六二〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

陣中想出話（卅一）

平町出身
歩兵第廿九聯隊第三中隊　水野重光

▼空腹行軍（2）

○○上等兵は背負袋の中から晝食の殘飯を思ひ出し、飯盒を握り、恰も懷しの戀人との對面の樣に大事に食べ始めた、そして語り出した

○○上等兵『此の飯盒一ケで一日食べられるんだからなあ――除隊したら一日飯盒を吊して歩くとお金が溜る』

最前線で砲撃の音が響いて來る、休憩中の兵は異口同音――にそら始まつたぞ――と顔見合ひながら暮れ行く遙かの山影を眺める

C二年兵、どこから聞いて來たか『今の砲撃は松花江を渡る匪賊を砲撃して居るんだとよ』氣持よさそうに笑ひながら皆に話して聞かせて居ると、前方から出發〳〵と呼ぶ聲がする。

闇が遂に大地に迫つて太陽と月が交代して下界を照してゐる、冴え渡つた夜影は本當に平和そのものだ、下界に醜い鬪爭があるとは思はれない。

大行李監視部隊たる我吾は一番遲れてしまつた。

時計は午後九時に近い、今少しだから氣合を掛けろと後で顔は見えないが元氣な者が叫んで居る。

A二年兵はバグリ〳〵と種胡瓜を雜嚢から出してはうまさうに食つて居る

空腹なる先生、突然「トーキミ」の香がプーと來たからたまりません、敵襲を受けて抵抗線に就くよりまだ早い、苦心して燒年初年兵の厚意を謝しつゝホクリ〳〵と食べながらあゝ……助かつた、甘味なあ〳〵。

本當に二十三、四の青年も遂に六才の童子に成らざるを得ない現實の苦しさであつた。

やうやく意識を取りもどした者の如く平和な夢を結ぶ可く部落に宿つた。【了】

ノート

エプロンハンケチを白く洗ふ法は、鍋にお湯を煮たて、熱湯一升について炭酸ソーダ一匁、粉石鹸四匁の割合ひにとかし、中に洗物を浸し蓋をして二時間位おいて洗ふと實にきれいになります、田舍などではムクロ、樹羽子の玉の皮の煎じ汁で洗へば奇麗になります。

二明日の献立二

【朝】みそ汁――わかめ　ねぎ
【晝】吉野煮――牛肉　里芋
人參　三つ葉
【晩】旨煮――棒たら　里芋

口には早く着いた兵が――御苦勞樣です――と笑顔で迎た

新俳句

小島寓居時代　木津茂太郎

コスモスにゆうげであつた
山道女が來たふつくらしたも露はしてゐる
桃をたべて田舍へ來てゐる
高い處に杉の一本が白く光つてゐた
鬼薊といふ花が草中にたゞ一本
かなかなかな鳴けばまたかなかなかな
ゆうべで黑い土に草とつてゐる

夜にもなれば蟲の聲一つ草の中で
雲はうごいて空は雲になつた
海うつすらと夏のこの道
黑いかうもり靑い稻の中を
白い鷄白い鷄と歩いてゐた
あかり來て夕暮の蟬が鳴きしきつてゐる
白い蝶一つ草をぬうてなすこともない
脊のたかい黃色の花です夏が來ました

イヤ！　君！
いゝ冬服を求めたね
斷然三三年型だよ
いやコレカネ！
例の……「ソレ」
正札堂さ
平町四丁目停車場通電四三六

破魔弓と羽子板を
陳列致しました
御子さまの御祝から
三十二年の不景氣魔を破り？
三十三年の景氣を羽根上ぐる？
○是非御子樣の御祝盛に致しませう
スガノヤ提灯店
平四丁目（電話九五番）

外科
花柳病　專門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

梅毒
淋病　皮膚病　婦人病
專門
十二指腸虫病
松村醫院
胃腸病　性病
平南町　電話一七〇

質流れ衣裳　大康貢
三丁目通り
旭屋衣裳店
電話四二五番

暫く御預りを控へて御迷惑をお掛けして居りましたが整理も一段落告げましたので從前通り夜間九時までお預りを再開始致しましたから御利用御引立を御願申します。
一六銀行係

豫告中の發賣品は
滿洲よせなべうどん
でした……なべは風味よし味よし○安すし
御來客の御馳走に氣うけよし
自慢の味と○甲を！どーぞ御試食下さい
御一人前　十五錢
出前迅速
世界食堂
電話六三三番

此事實を何んと見る？

失業救濟事業とは

名のみの工事

新川改修の勞銀は

總工費の僅か四分の一

▽……舊暮迫つて不安募る

平町の失業救濟事業として繼續されて居る新川改修工事は既に大半の工事を了し田甫との連絡架橋等も殘す處僅かとなつて

附近一帶 は全く面目一新の觀がある從つて作業量が減少したのを理由として先に一日約百人宛の失業者を出動せしめて居たのを今は十名減少して九十名と爲し更らにけふからは廿名を減らし全員七十名のみとなつた

此の爲め に失業勞働者は舊暮れが迫つて出動日割が急に尠くなり生活苦は一層激甚を加くる事となつたが舊歳末から正月にかけては世間一般も土木的の仕事を差控へる關係上全く收入の途を斷たれて仕舞ふ事になるので

自分等の 死活に關する問題であるとなして町當局に對し舊暮れ及び正月中は減員を見合せ工事を進渉せしめて貰ひ度いと請願する處があつた一体同匡救事業は工費總額二萬三千圓の巨額を算して居るが此内七千五百四十九圓は

土地買收 費また二千七百五十七圓は家屋移轉等の保償費に消えて無くなり更らに器具機械費に百八圓事務所費に千四百四十圓、材料費に三千五百圓、雜費三百卅七圓等を要する爲め實際の失業勞働者を救濟すべき

土工費は 五千六百十六圓となり工費總額の四分の一にも滿たない額である此金で兎にも角にも延人員一萬人を使用する目論見であつたが最低賃銀

四十錢の 女人夫も此處數日でお暇が出る事となり其後は勞銀が七十錢以上の者のみとなる處から土工費が遂に足を出す恐れがあるので已むなく此際勞働者の減員して費用を緩和する事となつたもので折角の失業救濟事業も

その實が その名に添はず甚だ緣遠いものとなり了せて仕舞つた

町村長會總會

けふ諸般の協議

一・昭和八年度町村豫算編成に關する件　一、地租及特別地稅附加稅賦課率に關する件　一・礦產稅附加稅增徵に關する件　一、災害免租地に對する町村附加稅免除に關する件

△支會議案

一・自吉事務講習生募集の件　一、凱旋部隊及除隊歸鄕者歡迎に關する件　一、年末年始に際し申合の件　一、昭和八年度町村豫算編成に關する件　一・町村會議員改選に關する件　一、事局匡救事業の件　一、町村事務改善に關する件　一、支會諸給與の旅費規程制定の件　一、昭和八年度支會歳入出豫算の件　一、昭和八年度統計協會歳入出豫算の件　一、新聞掲載に關する件　一、全國町村長會定期總會の件　一、雪害問題政治的解決記念寫眞帳判行の件

正月仕度の爲め

農家持米手離す

商人側の在庫米も豐富で

米價は軟調子に

平地方の米穀相場は去る五日迄は五等一俵八圓九十錢の高値を現し尙騰貴の氣配あつたが最近舊年末に入り郡下農村では正月仕度の爲めかなり持米を手離す向あり本日は二十錢の値下りを見て一俵八圓七十錢に落ちたが更らに米價暴騰を見越して平米穀商人が買集めた持米は現在二萬俵に達して居るので是れが市價の値下りから急激に市場に現れれば一層値下りに拍車を掛ける事となるので當分從來の樣な騰貴振りは見られないであらうと

移出の多くは

下等米ばかり

水害で乾燥不充分

平穀物檢査所で昨年中に取扱つた移出米の檢査數は合計一萬五千俵で其の六割五分は等外米、三割五分は五等米で一般に下等米のみの檢査が多かつたが是れは昨年中の風水害の爲め乾燥の惡い混合米が多かつた爲めであると

會我校長出福 平第一小學校長會我直治氏は本日福島男子師範學校に於て開れる福師同窓會役員會に出席の爲め今朝平發五時四十分にて出張

肥料製造

内郷村で講習

縣農事試驗場主催農事講習會は來月四日より八日迄内郷村第一小學校にて開催されるが講習科目は土壤及び肥料の製造に就いてである

江名漁港

設計指令

けふ縣が發表

既報石城郡江名町字中ノ作及び折戸部落の漁港修築工事個所決定に就いては過般農林省より橋技師が出張調査したが昨十三日阿野江名町長は中ノ作、折戸兩區長外代表者と共に出縣今十四日工事個所決定の指令を受ける事になつたが大体工事個所は中ノ作及び折戸の中間に設計し兩部落共に漁獲の便宜を受け得る樣になる模樣である

川前産馬總會 石城郡川前村産馬組會では來る十七日午前十時より村役場に於いて總會を開き七年度事業報告並に役員の改選を行ふと

第二訓導更迭 梁川小學校に就任する平第二小學校訓導玉木英明氏は明朝平發八時五十分にて赴任するが後任として平町仲間町小野金太郎氏の次女小野絢子氏が任命された

平町人事

回出生

△六間門一六當時東京市大森區入新井町六丁目四三五相川勇氏二女巴

△二丁目二六當時臺灣臺北市本町一丁目三七鈴木新兵衛氏三男勇

回死亡

△新川町八小川德太郎〇

美味！芳醇！
たひらの正宗
山崎合名會社
電話一〇番

印刷物の
御用命は
常磐毎日印刷
株式會社
電話六三〇番へ

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

無名の篤行家が又もや大金寄附

貧困者にと金百圓を……

何人であるか見當がつかぬ

本日平町役場へ貧困者の舊正月の餅代に當てゝ欲しいと金百圓也の寄附を送つた無名の篤志家があつたが昨年も正月と盆との二回に大金を寄附した事とて町役場では何人であるかを極力調査して居るが一向に見當が付かず町當局は此の隱れた篤行者に非常な感謝を表してゐる

爆破自殺

抱いたダイナマイトに自から點火して

石城郡湯本町字辰ノ口三七入山炭礦坑夫岩間水一（三）は昨十三日午後八時頃第四斜坑内に於いて作業用ダイナマイトを身に抱き自から點火して五体を木葉微塵に粉碎爆死を遂げた届出により平署員が檢視すると傍らに四通の遺書を殘して居り復雜した家庭の不和が原因であるらしく目下家庭内の事情を取調中である

磐中査閲

來る廿六日に

磐城中學校に於ける軍事教練査閲は來る二十六日執行の筈であるが査閲官は平町出身若松二十九聯隊歩兵中佐若生清氏であると

庶民金融

宮澤教諭講演

平商業學校卒業生指導第四回商工研究會は來る十七日午後七時より庶民金庫樓上に於て開き宮澤教諭の庶民金融に就いてと題する講演があると

磐女の父兄會

磐城高等女學校植田、山田・錦方部父兄會は來る十六日午後一時より植田小學校に於て開かれ正木校長始め田中酒井、永島、佐々木の諸教諭が出席すると

平町入營壯丁

平町仲町一八平松明友君は今回名古屋野砲二聯隊に入營する事となり明十五日午前九時一分平驛發列車で出發する

磐女の書初展

磐城高等女學校にては今月末全校生徒の書初め展覽會を催すと

是が非でも

年度内には整理

縣稅滯納の處分

平縣稅務出張所に於ける昨年度後期分縣稅の滯納額は現在二萬五千圓の多數に達して居るが昨年十一月の暴風雨の被害を蒙つた農村には滯納整理に幾分手心を加へて居たが年度内には是が非でも整理を要するので近く各係員總出で嚴重な督促を行ふ事になつた

溫い御飯を食べて勉強しませうと

磐女校が溫飯器備仕

平地方に於ける寒さは昨朝來俄に嚴しくなり愈々本格的になり平町各學校生徒等は火の氣のない教室に震ふて居るが、磐城高等女學校にてはせめて晝飯時だけでも溫い辨當を食べさせやうと校友會の發議に依り溫飯器十六ケを備へ本日より使用せしめたので生徒等は非常に喜んで居る

平商校を視察

福島商業學校教諭坂内萬氏は今朝平着八時半にて來平平商業學校に於ける國語漢文及び訓練の視察をなし栃木茨城方面に向つて出發

改正唱歌研究

平第二小學校にては阿部訓導主任の下に毎週土曜日文務省の改正唱歌小學教材に就いて研究會を開くと

平商校にもラクビー部

平商業學校にては今學期よりラクビー部を設け本日より練習を開始したが指導者は矢野教諭にて將來は野球部同樣磐中と定期試合を行ふと

平裁判たより

△石城郡江名町字北町百十七番地貨物自動車營業佐藤文治郎（四〇）は無免許にて去る六日茨城縣那珂郡佐野村地内縣道に於て貨物自動車を運轉し自動車取締令違反として罰金二十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

坑夫と女中がシンデ沸底

テンデなり手がない

平職業紹介所に對し昨日も勿來町の大日本炭礦より百名の採炭夫募集方を申込んで來つたが一般の求職者には不向きで折角の大量求職も割合希望者がない又女中さんの求人は現在十一名からあるが志願者少なく紹介所では頭を悩して居ると

平職業紹介所報告

回　人を求める方

△給仕見習　十五才　尋卒　仕着小遣五圓（平町某食堂）

△染物下働　三十才　委細面談（平町某）

△女中　二十才前後　高卒　月五圓（平町某）

△店員　二十三才　尋卒　給料面談（平町某）

回　職を求める方

△鳶職　三十三才　尋三修　給料面談（内郷村某）

△牧場雜夫　二十九才　高卒　給料面談（東京市某）

△雜夫　三十八才　高卒　給料面談（平町某）

△大工　二十七才　高卒　給料面談（田村郡某）

△工場雜夫　二十二才　尋卒　給料面談（内郷村某）

明日のラヂオ

仙台放送局

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間　劇とお話「豐太閤祭」金成

音樂童話會

▼後六、二五　國立公園特別講座「阿寒とその環境」林常夫付小唄二題釧路市藝妓連中

▼後七、三〇　講演「我が國の產業に就て」渡邊俊雄

▼後八、〇〇　ピアノヴァイオリン二重奏「ソナタニ長調作品七」モギレフスキーレオシロタ

▼後八、三〇　御國淨るり牛若君「東下りの段」錦木幸龍

▼後九、〇〇　連續講談「淺野三勇士」第二席一龍齊貞山

▼後九、四〇　全國ニュース氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前九、一〇　榮養料理「辨當燒鹽鮭と甘藷」研究所

▼前九、三〇　子供の時間　お話「變つた凧の作り方」闘猛

▼前一〇、〇〇　宗教講話「親鸞教義の文化的倫理的地位」大谷尊由

▼前一〇、三〇　講演「ナイル・デルタノ旅」岡山醫大教授醫學博士鈴木稔

▼前一一、〇〇　二元放送「東西高段者圍碁手合」一

▼後〇、五〇　常磐津「乘合船惠方萬」幾岸澤式多滿外

▼後一、二〇　放送舞臺劇　高賀十曲の内「紀國文左大盡舞」濱村宗十郎外

▼後二、二〇　尺八と箏曲　尺八片山雄山外　箏中島雅樂之都　平野雅秀外六名

▼後二、五〇　掛合噺　大丸民之助　柳家とし松

▼後四、二〇　大相撲春場所狀況（第三日目）國技館より中繼

▼後六、〇〇　童謠と兒童劇　山形縣東根小學校

▼後六、三〇　趣味講演「大行脚三千風」江見水蔭

▼後八、〇〇　浪花節「義士外傳天野屋利兵衛」吉田源良千代

▼後八、五〇　連續講談「淺野三勇士」（第三席）一龍齊貞山

▼後九、三〇　御國淨るり牛若君「東下りの段」錦木幸龍

▼後九、〇〇　連續講談「淺野三勇士」第二席一龍齊貞山

▼後九、四〇　全國ニュース氣象通報　番組豫告

▼前九、一〇　榮養料理「辨

天氣豫報

今晩は北西の風晴れ明日は天氣よし

斯界の權威!!!
大塚の靴
學生靴　自生編上靴　六圓
女學生半靴　五圓
紳士靴弊店自慢の流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七番

市原醫院
平町田町
電話一一四番

豪傑郎玉

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百四十三席　平手造酒

死を決した富五郎

飯岡の助五郎は一日も早く勢力を押へねば自分の危險それで金比羅山から勢力を引出すやうに種々工夫を用ゐたがおりて來る樣子はない、そこで子分に云ひ付けて夜に乘じて裏山から登らせ探らしたが

○『親分わたしの見たとこ五ろでは四十人は居りません、大層山は靜かです、勢力の居るところまでは行きませんが女夫杉の前までどうやら忍んで行きました、五六十人居るならばあの邊まで見張りを出さなければならねえ、それが見張りの者も居りません、まアわたくしの考へでは多く居たところで十人少なければ五人か三人でございませう』

助『イヤそれで思ひ當つた事がある、山に押て行くと鐵砲を擊つ音はいつも一ケ所よりか打出さねえ、五六十人も鐵砲を持つてゐるなら四方から彈丸が飛んで來る筈だ、それが打出す所は一ケ所、多くは木の影から彈丸が飛んで來る、これは小人數を見せぬためであらう、それに彈丸の來ゐは一ケ所と定つてゐるは鐵砲の數の少い事も判る、これは旦那に申上げて明日にも頂上まで押寄せたならば勢力を繩に掛けることも出來るであらう』

と玆で八州取締の役人中山誠一郎にこの事を告げて翌朝は三百人を二手に分けて頂上まで押寄せる事にした、此方は勢力翌早朝金比羅宮の前に出て來て

富『榮助、食物はまだあるか』

榮『米が二升ばかりありますよ』

富『さうか此處へ出してくれ』

榮『飯は炊ずともまだありますよ』

富『イヤ炊くわけでねえ此處へ出してくれ』

榮『それでは此處へ持つて來ますよ』

と社に藏つて置いた袋に入つた米を持つて來た、勢力はそれを金比羅宮の三寶に載せうや〳〵しく神前に供へてしばらく手を合して祈つて居りましたがそれが終ると社の前の廣場に來て石に腰打掛け

富『榮助、汝は不運の奴だまだ乳呑兒の内に母に別れ續いて親父には死なれ、十一の時から百姓に雇はれて田の草を獲つて苦勞をして十六の春から俺の子分になり今日まで面白い思ひもせず俺と一緒に死ぬとはあはれな奴だなア、榮助俺を怨むナ』

榮『なにを云つてなさるおまへさんの爲めにどうやら男になりました、シテ見れば其の恩人と與に死ぬは本望怨むところはございませんや』

富『よく云つてくれた、ところでなもう此處に居ることは出來ねえそこで今日にも長い草鞋を穿く』

と云はれて榮助は勢力の顏を熟つと見て

榮『そいつは親分妙だナ恁う山を取卷れてゐては下ることは出來ますまい、この山を下ることさへならぬ今の境涯、それがどうして他國に走ることが出來ませう……』

富『イヤ榮助長い草鞋を穿くと云つたは譯がある』

榮『其のわけを聞かしておくんなさい』

富『ちと行く先は遠方だ、しかし主と二人で之から行く國は地震もなければ火事もなし雷もならず風も吹かずそれは結構な國だぜ』

榮『ヘエ日本にそんな所はなからう、シテそれは何處ですね』

富『西の方だ道は北處から十萬億土、一日二十里づゝ歩くとしても五年や十年では行きつくめえ』

榮『判りやした、親分は此處で死にますかね、イヤ今日死にますか』

富『ウン今日此處で佛になると決心した』

榮『しかし親分まだ米もあり彈丸もあります』

富『米があるとも彈丸があるともそれは玆二三日中に盡きてしまふ一粒の米もなく一發の彈丸もなくそれで死んでは汝や俺の恥になる勢力は食ふ物が盡きた彈丸も盡きたゆゑ腹を切つたものであらうと云はれては恥であらう、昔梶原源太は生田の森のぬけがけの時矢を殘らず射拂ひこれは武士としての恥辱と矢の代りに梅の枝を手折りこれを箙にさして引揚げた事がある、梶原は立派な侍おれは博奕打身分は違ふがその心いきは異なりばねえそれゆゑ彈丸や米のある内に死のうと決心した』

平町二丁目
三井タクシー
電話六八五番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町
電一〇七

全般外科
醫學博士　渡部義夫
平町田町大通り（電話二七七番）
渡部外科
（入院應需）

嚴冬の征服者
福祿ストーブ
戸に毎に福祿!!!四海は常春!!!
電話三七番へ
カタログ御申越下さい早速持參致します
福祿ストーブ福島縣一手販賣
阿部石炭商店
平停車場前

御贈答に
記念品に
諸景品に
!!!!!!!
漆器を!!!
專門の共は
誠實勉强
親切第一
在庫豐富
是非御用命を
ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウル、ヌルモノミセ
平町三丁目北裏（元郵便局裏通り）
各國產漆器
專門卸小賣
共漆器店
店員募集　十三四才位　小店員　三十才迄位　外交員

吉田眼科病院
平紺屋町・電話六八番